

2019 年卒
Vol.08

7月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018年7月発行)

2019年卒業予定者の採用面接が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は今年も8割を超えていたことがわかった。

前年同時期調査との比較や、先月調査（6月調査）からの変化に着目して分析したい。

1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は81.1%。6月（65.7%）より15.4ポイント上昇
- 前年同期実績（83.2%）を2.1ポイント下回る
- 就職活動終了者は全体の68.2%。前年（66.1%）より2.1ポイント上昇。継続者は31.8%

2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

- エントリー社数の平均は30.7社。前年（39.6社）より8.9社少ない
- 筆記試験10.0社、面接試験7.9社。いずれも前年同期より微減にとどまる

3. 就職活動継続学生の今後の動向

- 未内定者の6割が「内定の見通し立っていない」。4人に1人が「就職以外の道を考えている」
- 選考中の企業は平均1.8社。受験予定を合わせた持ち駒企業は3.6社
- 「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」35.9%。前年（33.7%）より増加

4. 就活継続者の進捗度合と、就活を終了したいと思う時期

- 就職活動「苦戦」65.5%、「順調」34.5%
- 4割が「7月中に終わりたい」。一方で「卒業までに」が1割を超え、長期戦を覚悟する者も

5. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は、文理とも「情報処理・ソフトウェア」が首位に。
文系は2位「銀行」3位「運輸」、理系は2位「自動車」3位「電子・電機」
- 就職決定企業の従業員規模は、1,000人以上の大手企業が7割近くを占める（67.8%）

6. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

- 「選考中」（28.2%）が最多。「セミナー参加時」「インターンシップ参加時」と続く

7. ここまでの就職活動を振り返って

- 「業界研究や企業研究に十分な時間をとれた」は54.9%で前年（50.9%）を上回る
- 「十分に企業研究ができないまま面接に臨んだ」が半数近くに上る（47.1%）

調査概要

調査対象：2019年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,147人（文系男子351人、文系女子330人、理系男子307人、理系女子159人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2018年7月1日～5日
サンプリング：キャリアス就活2019学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアスリサーチ

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は81.1%。先月調査(6月1日現在)の65.7%から1カ月で15.4ポイント伸び、2年連続で8割を超える高水準となった。ただし、前年実績(83.2%)には届かなかった。5月調査では前年同期を4.7ポイント上回り早期化が目立っていたが、6月には伸びが鈍化し、今回前年同期をやや下回った格好だ(2.1ポイント減)。大手志向の強まりやエントリー社数の減少なども影響していると見られる。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは78.2%。6月調査では47.7%だったので、この1カ月で大きく増えた。前年同期(74.2%)を4ポイント上回る。

モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は63.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者(4.8%)を合わせると、終了者は68.2%になる。内定率は前年同期を下回ったが、内定取得者の終了ペースが早まったことで、終了者の割合は増えた。活動継続者は「内定あり」(12.9%)、「内定なし」(18.9%)を合わせて31.8%。就職戦線は、大手企業の夏採用や中堅中小企業を軸に第2ラウンドへと移っている。

7月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		81.1 (83.2)	78.3 (78.7)	81.5 (84.3)	82.4 (83.7)	83.6 (91.1)
内定なし		18.9 (16.8)	21.7 (21.3)	18.5 (15.7)	17.6 (16.3)	16.4 (8.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	78.2 (74.2)	77.5 (69.2)	72.5 (70.0)	82.2 (81.3)	83.5 (80.4)
	活動は終了したが複数内定保持	5.3 (5.0)	6.2 (5.5)	5.6 (6.2)	4.0 (3.4)	5.3 (3.9)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.6 (0.4)	0.0 (0.3)	0.4 (0.3)	1.6 (0.8)	0.8 (0.0)
	就職活動継続	15.9 (20.5)	16.4 (24.9)	21.6 (23.4)	12.3 (14.5)	10.5 (15.7)

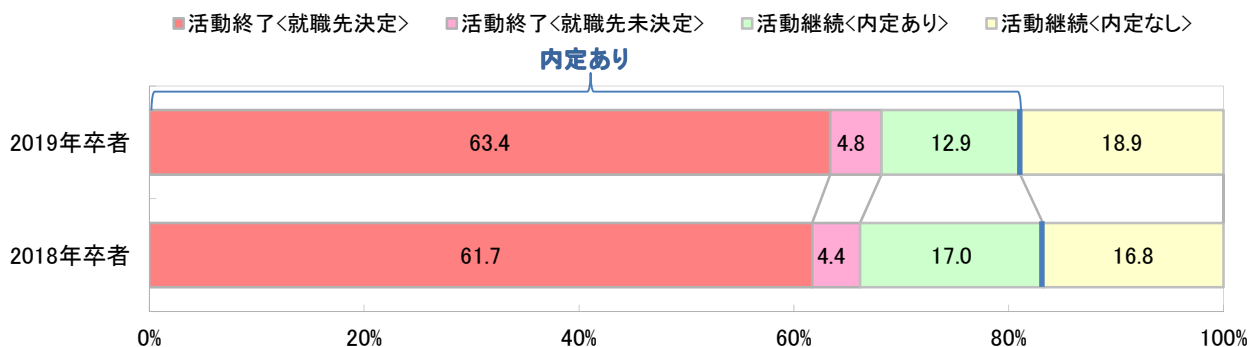
(%)

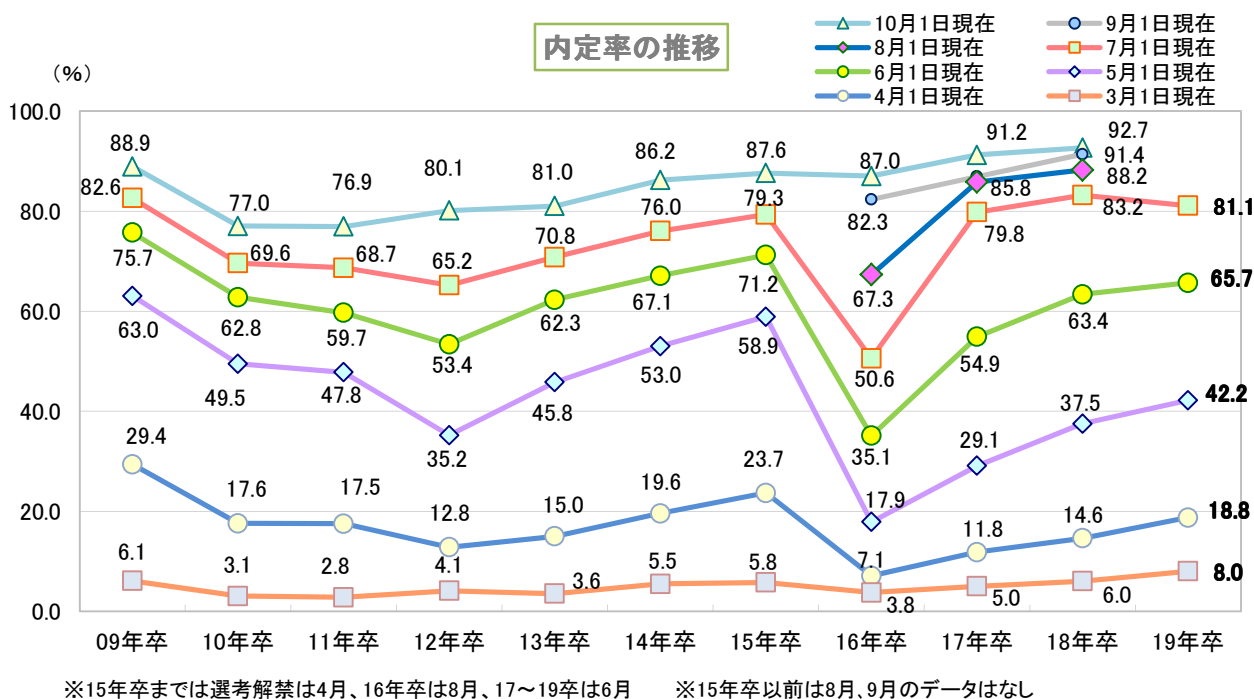
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.2)	2.3 (2.3)	2.3 (2.2)	2.2 (2.2)	2.3 (2.1)

(社)

※ () 内は前年(7月1日現在)の数値

学生モニター全体の活動状況





2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

7月1日現在の就職活動量をまとめた。これまでの一人あたりのエントリー社数の平均は30.7社。就職活動解禁後の3月時点から前年を下回っていたが(3.9社減)、前年同期との差は月を追うごとに開き、この7月は8.9社まで開いた。伸びの鈍さが際立った。

エントリーほどではないが、企業単独セミナーへの参加社数(13.9社)とエントリーシートの提出社数(14.0社)も前年同期を2社以上、下回っている。一方、筆記試験や面接などの選考試験受験社数もそれぞれ減少したものの、エントリー社数が大幅に減少した割には微減にとどまる。志望企業を絞り込んでエントリーする傾向は、今年一層強まったようだ。

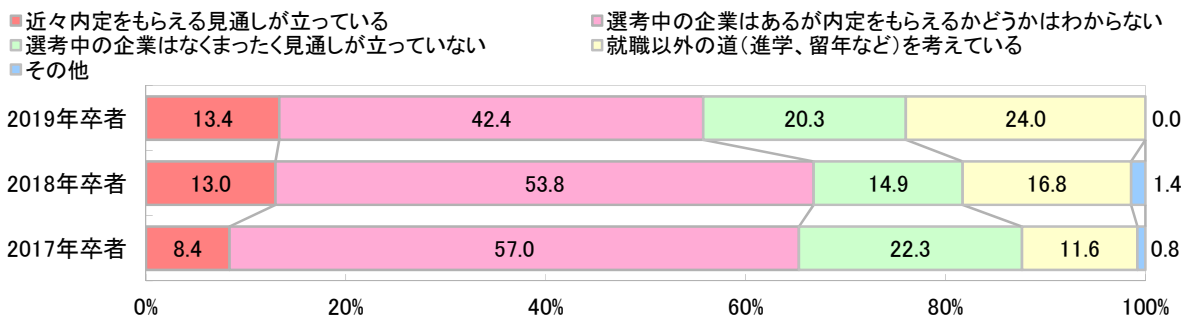
7月1日現在の就職活動の状況(活動量)

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー(社)	30.7	39.6	33.2	37.3	21.2	29.3
企業単独セミナー参加(社)	13.9	16.3	16.3	16.5	9.6	11.3
合同企業セミナー参加(社)	10.9	12.3	11.2	12.3	10.0	8.6
学内セミナー参加(社)	7.9	9.2	7.5	8.6	7.7	7.6
WEBセミナー視聴(社)	7.1	5.7	7.2	6.9	6.7	7.7
エントリーシート提出(社)	14.0	16.5	15.8	15.2	11.0	13.1
筆記・WEB試験受験(社)	10.0	11.3	12.0	10.4	8.0	8.7
グループディスカッション受験(社)	3.6	3.6	4.3	3.4	3.0	3.0
面接試験受験(社)	7.9	8.9	9.2	8.2	6.2	7.0
うち、最終面接(社)	2.6	2.8	2.7	2.6	2.4	2.6

3. 就職活動継続学生の今後の動向

未内定学生の内定獲得の見通しを見ると、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定をもらえるかわからない」(42.4%)だが、前年調査に比べ11.4ポイント減少。「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」、つまり持ち駒企業がなくなった状況の学生が前年より多く(14.9%→20.3%)、厳しさが増していることがうかがえる。両者を合わせると62.7%となり、未内定者の6割強が先の見えない状況にあると言える。一方、「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」という回答が24.0%に上り、4人に1人が就職の見送りを視野に入れていると回答した。

未内定者が内定を得る見通し

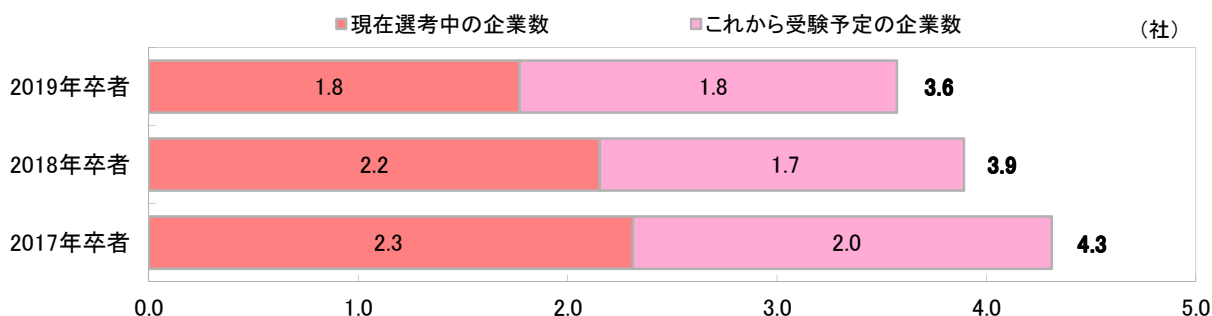


※各年7月調査

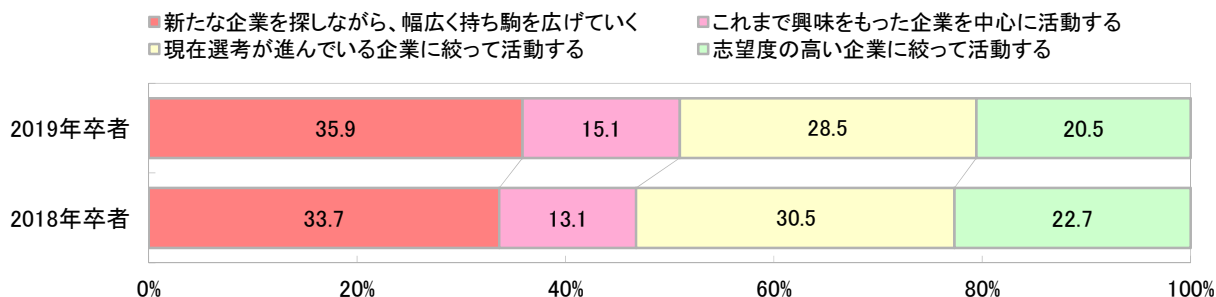
内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生(モニター全体の31.8%)の、現在選考中の企業数は平均1.8社。これから受験予定の企業数1.8社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は3.6社。前年(3.9社)、前々年(4.3社)に比べ少ない。

今後の方針・戦略は「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が最も多く、割合も増している(33.7%→35.9%)。今ある持ち駒では不十分だと感じている学生が多いことが推察できる。

7月時点の持ち駒企業数

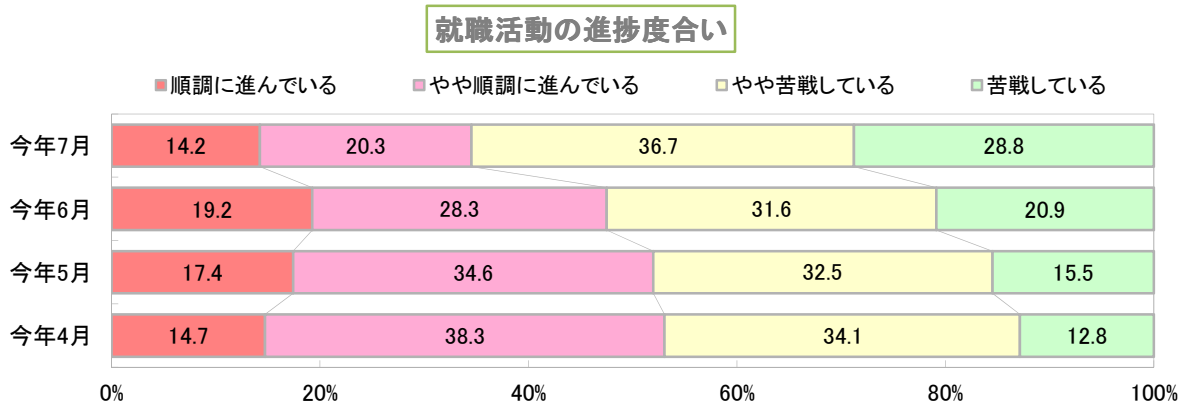


今後の就職活動の方針・戦略

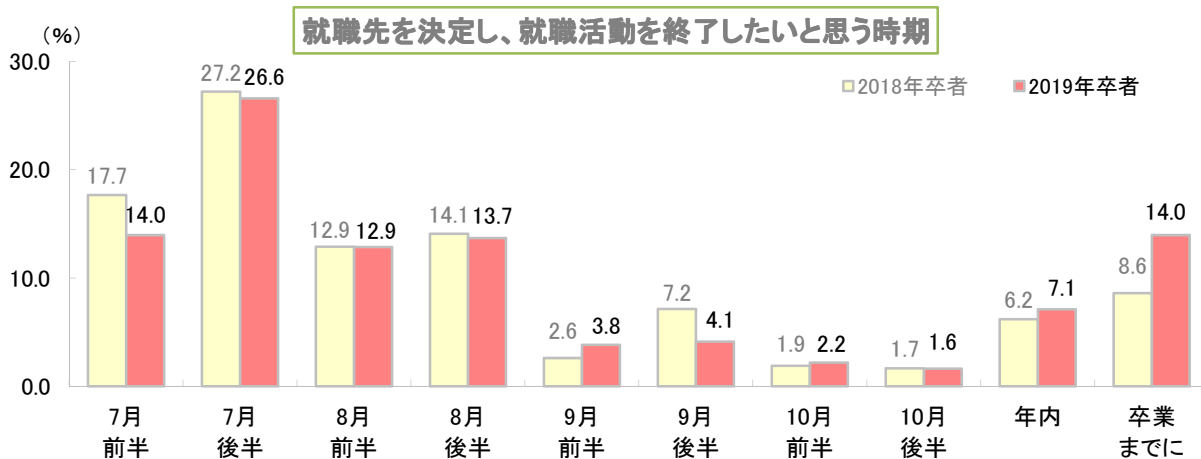


4. 就活継続者の進捗度合と、就活を終了したいと思う時期

就職活動を続けている学生に、自身の進捗度合をどのように感じているかを尋ねた。「順調に進んでいる」との回答は3割ほどであるのに対し（「やや順調」とあわせて34.5%）、苦戦している学生のほうが圧倒的に多い（計65.5%）。6月調査までは拮抗していたが、6月から7月にかけて「苦戦している」が大きく増加した。就職先を決めて早々に活動を終えた学生がいる一方で、なかなか内定のない者や納得のいく就職先に巡り会えない者にとっては、厳しい就職戦線となっている様子がわかる。



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「7月後半」(26.6%)が最も多い。7月前半・後半の合計は約4割で(40.6%)、8月後半までを合わせると6割を超える(67.2%)。できるだけ早く終わらせたいと考えている学生が大半だ。しかし、前年同期と比較すると、「年内」と「卒業までに」がそれぞれ増加するなど、長期戦を覚悟している学生も少なくない。継続学生の4人に1人(24.9%)は10月1日の正式内定日にこだわらず、秋以降も就活を継続することを想定しているようだ。



■苦戦していると感じる理由

- なかなか面接に通らず、現実と理想が乖離している。 〈文系男子〉
- 周りの友人が5月中に就職活動を終えていた中、自分は6月から選考が始まった大手企業の面接が思っていた以上にうまくいかず、就職活動を続けているため。 〈文系女子〉
- 内定が一つもなく、だんだん行きたい企業も少なくなっているため、かなり焦っている。自分を採用してくれる企業はあるのかと不安になっている。 〈理系女子〉
- 準備が遅かった。受ける企業が少なかった。 〈文系男子〉

5. 就職決定企業の属性

ここからは、就職先を決定して就職活動を終了した学生(モニター全体の63.4%)のデータを見ていこう。
まず、就職決定企業の業界を文系・理系ごとに見てみた。文理ともに「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が1位。いずれも前年よりポイントを伸ばし、集中度が増している(文系7.7%→11.5%、理系11.3%→12.9%)。今年は早期から一貫して就職決定業界のトップで、IT業界の採用意欲の高さがうかがえる。

文系では、前年1位だった「銀行」は、今年2位に順位を落とした(8.6%)。メガバンクをはじめとして、採用数を大きく減らしたことが影響しているのだろう。3位は「運輸・倉庫」(6.1%)。

理系の2位は「自動車・輸送用機器」(9.7%)。前年同率で1位だった「電子・電機」(9.4%)は3位に順位を落としたものの、上位の顔ぶれは、前年同期とほぼ変わらない。

文 系

2018年卒		%	2019年卒		%
1位	銀行	9.6	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.5
2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	7.7	2位	銀行	8.6
3位	保険	7.0	3位	運輸・倉庫	6.1
4位	運輸・倉庫	6.3	4位	建設・住宅・不動産	5.1
	建設・住宅・不動産	6.3	5位	調査・コンサルタント	4.7
6位	電子・電機	5.4	6位	保険	4.7
7位	調査・コンサルタント	5.1	7位	商社(専門)	4.4
8位	情報・インターネットサービス	4.0	8位	証券・投信・投資顧問	3.9
9位	自動車・輸送用機器	3.5	9位	人材紹介・人材派遣	3.7
	商社(専門)	3.5	9位	電子・電機	3.7
11位	マスコミ	3.3	11位	マスコミ	3.7
12位	コンビニエンス・GMストア	2.6	12位	通信関連	3.4
	鉄鋼・非鉄・金属製品	2.6	13位	情報・インターネットサービス	2.9
14位	証券・投信・投資顧問	2.3	14位	素材・化学	2.9
15位	商社(総合)	2.1	15位	エネルギー	2.5
	素材・化学	2.1	15位	官公庁・団体	2.5
17位	医薬品・医療関連・化粧品	1.9	17位	ホテル・旅行	2.5
	官公庁・団体	1.9	18位	その他サービス	2.2
19位	その他サービス	1.6	19位	機械・プラントエンジニアリング	2.0
	ホテル・旅行	1.6	19位	自動車・輸送用機器	2.0
	人材紹介・人材派遣	1.6			

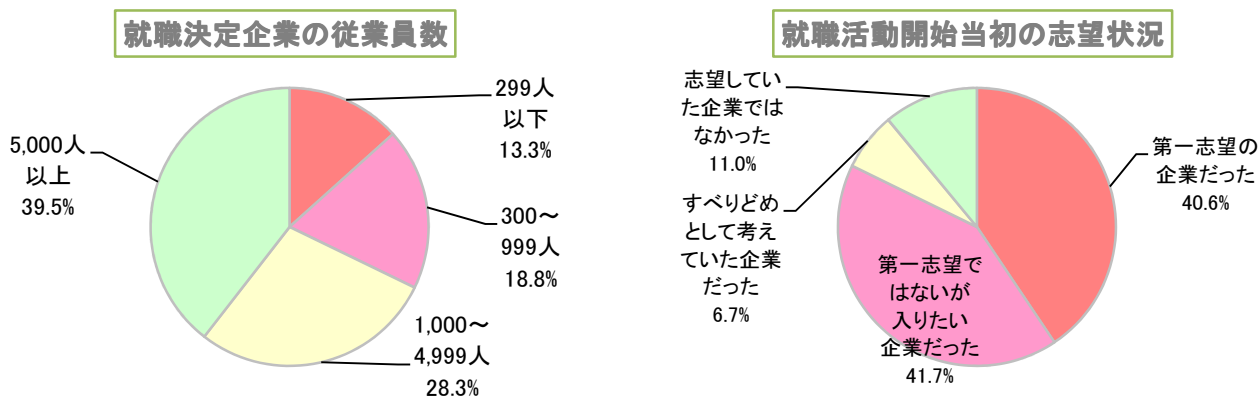
※上位20業界を掲載

理 系

2018年卒		%	2019年卒		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.3	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.9
	電子・電機	11.3	2位	自動車・輸送用機器	9.7
3位	医薬品・医療関連・化粧品	10.1	3位	電子・電機	9.4
4位	自動車・輸送用機器	8.0	4位	建設・住宅・不動産	9.1
	素材・化学	8.0	5位	医薬品・医療関連・化粧品	6.6
6位	建設・住宅・不動産	6.3	5位	素材・化学	6.6
7位	水産・食品	5.1	7位	水産・食品	5.0
8位	機械・プラントエンジニアリング	4.8	8位	機械・プラントエンジニアリング	4.7
9位	調査・コンサルタント	3.9	9位	調査・コンサルタント	4.4
10位	運輸・倉庫	3.3	10位	運輸・倉庫	3.4
	精密機器・医療用機器	3.3	10位	精密機器・医療用機器	3.4
12位	その他サービス	2.7	12位	通信関連	3.1
	マスコミ	2.7	13位	情報・インターネットサービス	2.8
12位	情報・インターネットサービス	2.7	14位	エネルギー	2.2
	鉄鋼・非鉄・金属製品	2.7	15位	その他サービス	1.9
16位	エネルギー	1.8	15位	専門店	1.9
	銀行	1.8	17位	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	1.6
18位	保険	1.5	17位	鉄鋼・非鉄・金属製品	1.6
19位	通信関連	1.2	17位	保険	1.6
20位	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	0.9	20位	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	1.3
	専門店	0.9			

次に、就職決定企業の従業員規模の比率を見てみたい。従業員1,000人以上の大手企業に決めた学生を合計すると7割近くに上り(計67.8%)、大手企業に決める学生が大半に上がることがわかる。

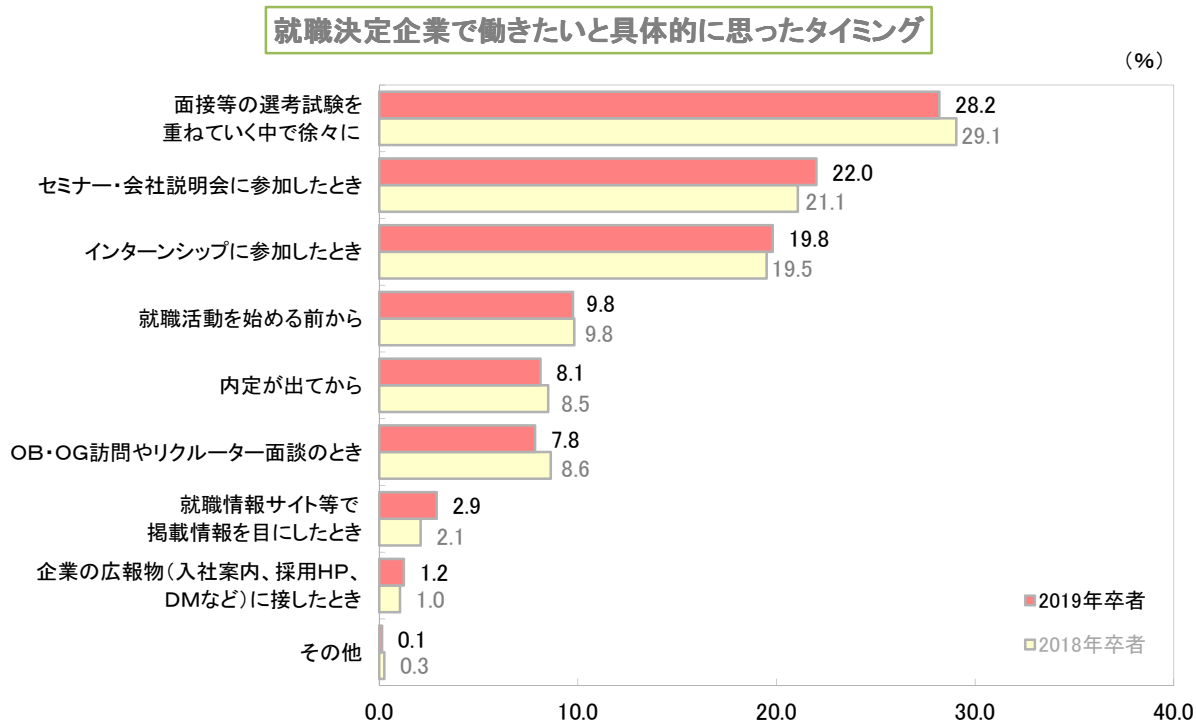
また、就職決定企業の就職活動当初の志望状況を尋ねたところ、「第一志望の企業だった」が4割を超える(40.6%)。「第一志望ではないが入りたい企業だった」(41.7%)と合わせると8割超(82.3%)。現時点で終了した学生は、就職活動当初の希望をかなえ、大手企業に就職を決めたケースが多いことが推測できる。



6. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミングを尋ねた。

最も多いのは「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」が約3割(28.2%)。次いで、「セミナー・会社説明会に参加したとき」(22.0%)、「インターンシップに参加したとき」(19.8%)が2割前後で続く。前年調査と比べると大きな変化は見られないが、インターンシップやセミナーなど比較的早い段階の項目が増加傾向にあり、学生が企業の志望度を定めるタイミングが早まっていることが考えられる。



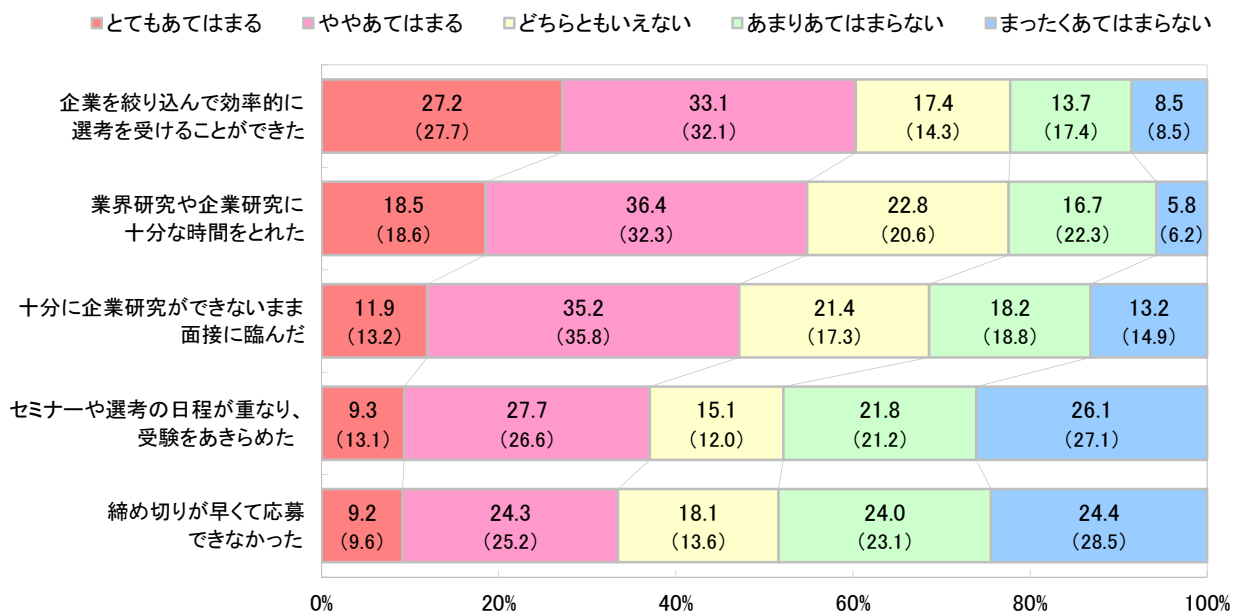
7. ここまでの就職活動を振り返って

ここまでの就職活動を振り返ってもらった。

新卒採用の日程ルールは 3 年連続同じだが、企業が選考時期を前倒す傾向は年々強まっている。ところが、「業界研究に十分な時間をとれた」という学生は過半数 (54.9%) に上り、前年 (50.9%) を上回っている。また、「企業を絞り込んで効率的に選考を受けることができた」という学生は 6 割を超える (60.3%)。インターンシップに参加するなど早期から就活準備を進める学生が多いことから、事前に志望企業を絞り込んで戦略的に就活に臨んだ者も少なくなかったと推測できる。

一方で「十分に企業研究ができないまま面接に臨んだ」という学生が半数近くに上り (47.1%)、3 月の解禁後、選考が一気に進んだことで準備不足を感じた学生が多かったと考えられる。「締め切りが早くて応募できなかった」「セミナーや選考の日程が重なり、受験をあきらめた」という学生はどちらも 3 割台で、過密日程で受験企業を絞らざるを得ない学生が一定数いたことがわかる。

ここまでの就職活動を振り返って



■就職活動を振り返って思うこと

- インターンシップで業界・企業研究を効率的に進めることができた。 <文系男子>
- 早い時期に業界研究をしておいてよかったと感じた。 <文系男子>
- たくさんエントリーしようと思ったが、ES にそんなに時間を割くことができなかった。 <文系女子>
- 企業によって、選考ステップが早い企業と遅い企業の差が激しいと感じた。 <理系男子>
- 締め切りの早い企業が意外と多く、後で興味があった時には手遅れだった。 <文系男子>
- 4 月から 5 月上旬にかけ、エントリーシートの提出、筆記試験、面接がどの企業も立て続けにあった。そのため十分な対策が練られなかったと感じている。 <文系男子>
- 企業研究をしていたつもりだったが、あまり深く調べられておらず、面接で上手くしゃべることができなかった。面接前にもっと研究しておけばよかった。 <文系女子>
- 内々定の時期がばらばらで、行きたいところの選考を待つのが辛かった。 <理系女子>
- 内々定を一度に複数社もらい、決断に時間がかかった。 <理系男子>